

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成20年4月24日(2008.4.24)

【公表番号】特表2003-535952(P2003-535952A)

【公表日】平成15年12月2日(2003.12.2)

【出願番号】特願2002-502028(P2002-502028)

【国際特許分類】

C 0 9 D 5/20 (2006.01)

B 0 5 D 5/00 (2006.01)

B 0 5 D 7/24 (2006.01)

C 0 9 D 5/00 (2006.01)

C 0 9 D 11/10 (2006.01)

C 0 9 D 163/00 (2006.01)

【F I】

C 0 9 D 5/20

B 0 5 D 5/00 A

B 0 5 D 7/24 3 0 1 T

B 0 5 D 7/24 3 0 2 U

C 0 9 D 5/00 Z

C 0 9 D 11/10

C 0 9 D 163/00

【手続補正書】

【提出日】平成20年3月4日(2008.3.4)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項 2 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 2 0】 少なくとも一つのエポキシ基を有する第 1 有機分子、少なくとも一つの求核性基、望ましくは少なくとも一つのヒドロキシル基を有する第 2 有機分子、および充填剤および / または顔料のような、その組成物に溶けない少なくとも一つのさらなる物質を含むことを特徴とする、こすると除去できて、そして電磁スペクトルの紫外線領域の波長を有する放射線を照射すると硬化できる層を基材上に形成するための組成物の使用。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項 2 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 2 2】 こすると剥がれる層を基材上に形成させるための組成物であって、該層はこすることにより除去でき、そして該組成物は、少なくとも一つのエポキシ基を有する第 1 有機分子、少なくとも一つの求核性基、望ましくはヒドロキシル基である求核性基を有する第 2 有機分子、および実質的に平行でそして平らな表面を有する顔料、望ましくは光輝性顔料、金属効果顔料またはアルミニウム顔料の群から選ばれる、該コーティング組成物に溶けない少なくとも一つのさらなる物質を含んでいる、組成物の使用。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項 2 3

## 【補正方法】変更

## 【補正の内容】

【請求項 2 3】 基材上に、その基材上の情報を一時的に隠蔽するための、こすると剥がれる層を形成し、該層を除去すると、その情報が見えるようにするためのコーティング組成物であって、

次の：

a . i) エポキシ基を含む少なくとも一つの第 1 有機分子、と

ii) 求核性基を含む少なくとも一つの第 2 有機分子とを含んでおり、

該第 2 有機分子は、求核性基とエポキシ基の化学反応により、該第 1 有機分子で橋架けできるフィルム形成成分；

b . 該コーティング組成物に不溶で、少なくとも一種の顔料を含んでいる成分；

c . 望ましくは紫外線領域の電磁放射線を照射して、該第 1 有機分子と第 2 有機分子の間の該反応を開始するための少なくとも一つの光開始剤；

d . 場合により用いられる、さらなる添加剤；および

e . 場合により用いられる、溶媒；

を含んでおり、

該フィルム形成成分 / 該不溶成分 重量比 ( r ) が 0.35 ~ 0.95 の範囲であり、該組成物は、該層を形成するために、該第 1 有機分子と第 2 有機分子の反応により硬化され、該コーティング組成物は、20 で、2.0 Pa.s を超えない、望ましくは 1.6 Pa.s を超えない、そしてより望ましくは 1.3 Pa.s を超えない粘度を有する印刷インキであり、そしてその組成物の溶媒含有量は、その組成物の重量の 10 重量 % を超えない、コーティング組成物。

## 【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項 2 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 2 4】 該顔料が、第 1 および第 2 の平行で平たい表面を有するフレーク顔料類からなる群から選ばれることを特徴とする、請求項 1 から 2 2 の一項に記載の使用のための組成物。